

平成 25 年 10 月の解説（週間天気予報）

【10 月の天候状況】

上旬は、日本の東海上の太平洋高気圧の勢力が平年より強く、また偏西風も平年に比べて北寄りに流れたため、全国的に高温となり、北・東・西日本の旬平均気温は 1961 年以降で最も高くなりました。特に、台風第 24 号が九州西方から日本海を通過した上旬後半は、南から暖かい風も吹き込み、糸魚川（新潟県）で 10 月としては国内の観測史上初めて猛暑日を記録するなど、北日本から西日本にかけて厳しい暑さとなりました。一方、沖縄付近を北西進した台風第 23 号や沖縄付近から九州西方を北上した台風第 24 号の影響で、沖縄・奄美では降水量がかなり多くなり、西日本でも多くなりました。

中旬は、11～12 日は日本海を通過した低気圧に南から暖かい空気が流れ込んだ影響で、北日本から西日本にかけて気温が高くなりました。15～16 日は、台風第 26 号の影響で、北日本から西日本の広い範囲で暴風、大雨となりました。中旬後半は、台風第 26 号から変わった温帯低気圧に北から流れ込んだ寒気の影響や大陸からの冷涼な高気圧に覆われた影響で、北日本を中心に気温が低くなり、16 日は北海道の各地で初雪を観測しました。20 日は日本の南岸を低気圧が通過し、西日本から北日本の広い範囲で雨となりました。

下旬は、旬前半は、ゆっくり北上した台風第 27 号からの暖かく湿った気流の影響で、ほぼ全国的に気温が高く、曇りや雨の日が多くなりました。24～26 日は、台風第 27 号と秋雨前線の影響で、東・西日本を中心に大雨となりました。それ以降は、一時的な冬型の気圧配置の影響や、冷涼な高気圧に覆われた影響で、概ね全国的に気温が低くなりました。

月平均気温は、北・東・西日本でかなり高く、平年を 1 以上上回りました。若松（福島県）、長野、彦根（滋賀県）など 16 地点では 10 月の月平均気温の高い方からの 1 位を更新しました。月降水量は、北・東日本と西日本日本海側ではかなり多く、西日本太平洋側と沖縄・奄美で多くなりました。盛岡（岩手県）、大島（東京都）、萩（山口県）では 10 月の月降水量の多い方からの 1 位を更新しました。月間日照時間は、北日本ではかなり少なく、東・西日本で少なくなりました。むつ（青森県）では 10 月の月間日照時間の少ない方からの 1 位を更新しました。

【10 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値（注）より 2 ポイント低い 71%でした。地方毎の適中率は、北海道地方で例年値より 8 ポイント高い一方、東海・四国・九州北部・九州南部・沖縄地方で 5～7 ポイント低くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、九州北部・九州南部地方では例年値より 0.4 小さくなり、近畿地方で 0.4 大きくなりました。全国平均では例年値と同じ 2.1 になりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、各地方で例年値と同じか小さく、北海道地方では例年値より 0.5 小さくなりました。全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.9 になりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12 月の週間天気予報の利用にあたって】

12 月は本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪になる日が次第に多くなり、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。

降水が雨となるか雪となるかは、主に地上付近の気温や湿度によりますが、上空の気温などによっても違います。天気予報では、雪になる地域や時間帯の割合が大きいときは「雪か雨」、また、雨になる割合が大きいときは「雨か雪」と発表しています。雪になると交通機関などに大きな影響がありますので、早期の雪への備えに週間天気予報を活用してください。